

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立春日出小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 学期に1回以上、「いじめ・いのちについて考える日」を設定し、道徳の授業を通して、いじめや差別を許さない学習を実施した。そのため、令和7年度の児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。」に対する肯定的な回答が95.2%という結果となった。しかし、学力経年調査結果では、最も肯定的との回答では86.3%で中期目標には達成しなかった。
- ② 全教職員で児童理解を進めるために、スクリーニング会議Ⅰを月1回程度行うことができた。そのため、普段関わっていない児童のことも知ることができ、理解を深めることができた。その結果、令和7年度中期目標での不登校での改善が進んだ。また、学校生活の様子や学習内容などが分かるように、学校だよりを月に1回更新した。
- ③ 年間通して、児童集会を月に2回行った。その結果、児童アンケートにおける「自分はだれかの役に立っていると思う」の項目での肯定的な回答が、前期は71.8%だったのに対して、後期は82%と大きく向上が見られた。中期目標の学力経年調査の目標値には94.7%で達しなかったが、後期は運動会や作品展などの大きな学校行事があったことや、先生方の学級での日々の指導や声掛けなどがこの結果につながったのではないかと考えられる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① どの学年においても、1つの単元の中に必ず話し合い活動を設定し、児童は、対話を通して自分の考えを再構築した。どのように話し合い活動を取り入れるのが児童にとって効果的なのかを、低・中・高学年で考えた。低学年では、ハンドサインを活用し、児童全員が自分の考えを示したり、児童同士の考えをつないだりすることができた。また、ペアでの話し合い活動を取り入れることで、安心して自分の考えを伝えることができた。中学年では、自由交流を取り入れ、児童が、自分のニーズに合った話し合いを自分で選択できるようにしたことで、自分の考えをより適切に整理したり、友達の考えを生かしたりする姿が見られた。高学年では、習熟度別の話し合い活動を取り入れたことによって、児童の習熟に合った内容の話し合いができた。また、習熟度の高いグループでは、児童同士が問い直しをする姿も見られた。しかし、児童アンケートにおいて「先生や友だちの話を聞いて、相手の考えを理解することができる」の肯定的な回答は84.5%であり、目標の89%を達成することはできなかった。また、中期目標では、学力経年調査での最も肯定的な「当てはまる」の回答割合も31.8%で目標値の35%以上には達成しなかった。今後も、対話的な学習場面を意図的に設定し相手の考えを尊重しながら学ぶ態度の育成を図っていく必要がある。
- ① 令和7年度は、国語科で「深い学び」をテーマに研究を行った。研究授業は計画通り、各学年1回ずつの6回実施し、その他の教員も自由参加の公開授業を計画通りに行った。研究授業の後には研究協議会を開き、教員間で授業の振り返りを行い、深い学びについて意見交換をした。児童アンケートでは、「国語科の学習がわかる」の項目で肯定的な回答をした児童は82.3%で、目標の90%は達成できなかった。その原因としては、国語科の研究が4年目となり、これまでの学習をふまえて、文章の表現や叙述の意図を深く考えることや、自分の考えを根拠をもって説明することを重視した授業を行ったため、「わかる」と実感するのに時間が必要だったことも原因の1つだと考えられる。中期目標に対しては、学力経年調査の結果で、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させることができた。
- ② 月に1回、各学級で清潔調べを実施し、その都度、基本的な生活習慣について指導を行った。清潔の項目に挙げられている内容だけでなく、日常生活全体を振り返ることができるよう、睡眠や食事、身の回りの整え方などにも触れながら話を行った。また、月に1回発行している保健だよりを通して保護者に対しても基本的な生活習慣に関する情報発信を継続的に行い、家庭と連携し

た指導をすすめた。児童アンケートの「毎日同じ時間に寝ている（起きている）」の肯定的回答は、63.9%で目標の89%を達成できなかった。また、学力経年調査における結果でも、73.9%であった。高学年になるのに連れて習い事や家庭での生活リズムが多様化するため、就寝時刻や起床時刻を毎日同じにするのは難しく、アンケート項目に対して肯定的に回答しにくかったと考えられる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 令和7年度学校評価アンケートでは、「パソコンやタブレットを使った授業はわかりやすい」との肯定的回答が88.9%となり、目標としていた90%には届かなかった。しかし、中期目標の端末活用率については、活用した日数が94.6%で大幅に達成している。デジタル教材の活用や提示方法の工夫など、ICTを取り入れた授業改善に継続的に取り組んできた結果、一定の成果は見られたが、さらなる向上に向けて引き続き工夫が必要である。
- ② 期初に設定した指標である「ゆとりの日（ノー残業デー）」については、年間を通して週に1回設定・実施することができ、中間目標の指標は達成された。その結果、令和7年度の本校教員一人当たりの時間外勤務時間は、前年度の平均と比較して1時間以上短縮することができ、時間外勤務時間の削減に一定の成果が見られた。また、学校行事部会を通して教職員から意見を募り、行事内容や業務の進め方の見直しを行うことで、業務の効率化を進めることができた。これらの取組により、教職員が心身ともに健康に働くことができる職場環境づくりにつながったと考えられる。一方で、学期末や行事前など業務が集中する時期には、取組の徹底が難しい場面も見られた。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.0以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること）」が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%以上にする。
- ② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月25時間以下とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立春日出小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童が学校生活を安心して過ごせるように、また、楽しみに登校できるように指導支援する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員で児童理解を進めるため、スクリーニング会議Iを月1回程度実施する。 ○ 児童集会を可能な限り月に2回行い、交流や遊びの要素を取り入れることで、学校生活への楽しみにつながる活動を推進する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童が授業や学校生活を通して、自分も他の人も大切にできるような指導支援をする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学期に1回以上、「いじめ・いのちについて考える日」を設定する。 ○ 各学級で年3回以上、道徳の授業を通して、自分の命について、いじめ、差別を許さない学習を実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組内容】について	
今後の改善点	

大阪市立春日出小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標通りに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること）」が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 数学的思考力の育成を図るために、主体的に考え、対話を通して考えを深める算数の授業づくりに取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○ 校内研修計画に従い、各学年で年間6回の全教員参観の授業研究を行う。それ以外の教員については、自由参加による授業研究を全教員が年間1回以上（年間20回以上）行う。</p>	
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 児童の基礎学力の向上を図るための取組を行う。</p> <p>指標</p> <p>○ 児童が自主的に学習に向かう取組を、各学年毎に年間1つ以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【5、健やかな体の育成】。</p> <p>○ 健康な生活習慣が身につくように継続的に指導する。</p> <p>指標</p> <p>○ 月に1回各学級で生活チェックアンケートを実施し、学級の実態に応じた生活習慣の指導を行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組内容】について

今後の改善点

.

(様式2)

大阪市立春日出小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%以上にする。 ② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月25時間以下とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 一人一台学習者用端末などのICT機器を効果的に活用する。 ----- 指標 ○ 毎日、教科は問わず授業の中で5分から15分程度の端末利用を必ず行う。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 時間外勤務時間を減少させ、教職員が心身ともに健康に働くことができる職場環境づくりに取り組む。 ----- 指標 ○ 大きな学校行事がない月には「ゆとりの日 (ノー残業デー)」を週に2回以上設定・実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組内容】について	
今後の改善点	
.	